

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

- ・授業名人による授業を参観したり、授業研究など研修を重ねたりしたことで、多くの教員が道徳の授業における発問の仕方や板書のまとめ方など身につけることができた。
- ・地域教材や体験的な活動と各教科、領域とを関連づけて授業を組み立てたことで、意識や思考の連続性を保つことができた。
- ・学校公開日などで道徳の授業を公開したり、人権教育講演会に地域や保護者の方をお呼びしたりしたことで、保護者や地域の方に道徳教育への理解と関心が深まった。

1 研究推進校（又は推進地域）の概要

| 学校名 | 所在地 | 電話番号 | 児童生徒数 | 備考 |
|-----------|----------------|---------------|-------|----|
| 知立市立猿渡小学校 | 知立市上重原町小針115番地 | (0566)81-1372 | 384人 | |

2 研究課題

(1) 学校の教育的課題を踏まえた道徳教育内容の重点化

- ①他者を思いやり、よりよい人間関係を築こうとする意識を育む道徳教育
- ②学校・地域・保護者とのかかわり合いを通して、自己の生き方を見つめる道徳教育

(2) 道徳教育の計画的な推進と道徳の時間の指導の工夫

- ①各教科、領域と関連づけた総合単元的な道徳の時間の構想と実践
- ②多様な体験活動を生かした授業づくりの計画

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

「思いやりの心を育て、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成」
—地域と進める道徳の授業の実践を通して—

(2) 主題設定の理由

本校は、「まじめに（知）・明るく（徳）・がんばる（体）」を校訓とし、「まじめに学び、主体的に活動する心身ともに健全な子ども」の育成を教育目標としている。

特に徳育の面では、

- ・あいさつなどの礼節を重んじ、自らを律し、他とともに心豊かな生活を築く態度を養う。
 - ・豊かな体験活動、道徳教育の充実と推進を図り、豊かな徳性、正しい判断力、公共の精神を育てるとともに伝統や文化を尊重する態度を養う。
 - ・交流教育（特別支援学級・異学年）を推進し、心を磨く。
 - ・遊友タイム、交流会食、児童集会等を中心の場として、子どもたち相互のかかわりを広げ、思いやりの気持ちを深める。
 - ・奉仕、飼育、栽培等の勤労体験を重視し、働く意欲を喚起する。
 - ・給食指導を通して、望ましい食習慣を身につけるとともに、好ましい人間関係づくりに努める。
- これらに重点を置いて、教育活動を進めている。

本校は、児童数384名、教職員27名の中規模校である。学校の周りには田畑が多く、三世同居の家庭も他の小学校と比べて多い方といえる。子どもたちは、学区の祭りや子供会の行事などに積極的に参加している。学校安全サポートに62名の方が登録しており、登下校時には通学路に立って子どもたちを見守るなど、家庭や地域全体で子どもたちを育てていこうとする協力的な雰囲気がある。しかし、近年次々とアパートや一戸建ての家が建つようになり、それに伴って児童を取り巻く環境も大きく変わりつつある。両親共働き、あるいは両親がそろっていない、片親（父親あるいは母親のどちらか一方）が外国人の家庭も増え、17時を過ぎても大人が誰も家にいない留守家庭は増える一方である。また、昨年度行った睡眠に関するアンケートでは、毎日11時過ぎに就寝するという児童が低学年でも学級に複数いた。自己の生き方について考えを深める指導が年々難

しくなっており、家庭教育力の低下や地域の人間関係の形成力不足等の課題を抱えている。

本校の子どもたちは、教師に言われたことをきちんと守ろうと努力することのできる子が多い。教室移動の際には静かに移動し、集会などでは、話をする人を見て、姿勢よく話を聞くことができている。しかし、自己中心的な発言をしてしまったり、自分がやるべきことをやり、他人に迷惑をかけていなければよいと考えたりする子どもたちが少しずつ増えてきている。学校・家庭・地域が共により連携を深める必要があると考える。そこで、本事業に取り組む中で、よりよい学校生活を送るために、相手の立場に立って相手の気持ちを理解しようとすることや、なぜ相手のことを考えて行動するのか、またそのよさについて、道徳の授業を通じて考えさせていきたいと考え、本研究主題を設定した。

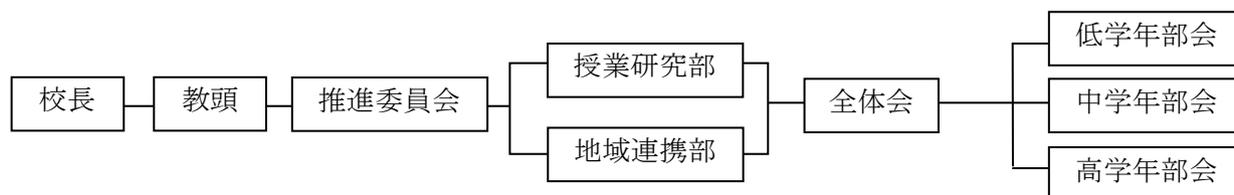
4 研究の概要及び特色

研究主題に示した子ども像の実現をめざして、道徳教育の指導方法について研究する。その際、授業の実践や校内の教育活動だけでなく、地域とのかかわりにより道徳的価値観を深めていきたい。さらに、心揺さぶる道徳の時間を通して、他者を思いやる気持ちに気づき、よりよい人間関係について考えることを道徳教育の目標とすることで、心豊かな生活を築く態度を育成したい。

(1) 研究の仮説

心揺さぶる道徳の時間を展開することで、他者を思いやる気持ちに気づき、よりよい人間関係を築いていこうとするであろう。

(2) 研究組織



(3) 研究の内容

①道徳の時間の充実

- ・道徳の時間の指導方法を研究する。(発問・板書)
- ・地域教材や体験的な活動と各教科、領域と関連づけた総合単元的な道徳の時間を展開していく。
- ・低・中・高学年部会で事前研究を深め、授業研究を行い、授業力を高める。
- ・研究校や授業名人の授業を見ることで、授業力を高める。

②教育活動全体で道徳的価値の実践化を図る。

③家庭や地域との連携(道徳の授業公開、ゲストティーチャーを迎えての授業や学校行事等)

(4) 研究課題にかかわる取組

①道徳の時間の充実

全学年各1回、講師を招聘し研究授業実践を行い、以下の点についてご指導をいただいた。

- ・資料研究は十分されていたか。
- ・道徳的価値を高めることができていたか。
- ・発問と板書の工夫がされていたか。
- ・授業展開(導入・展開・終末)は適切であったか。

資料は共通の間接体験をするものであり、自己を見つめるものである。資料研究を十分にを行い、登場人物に共感させることで道徳的価値について気づかせることができると、本研究から学んだ。また、意識の連続性が感じられるように発問を組み立てていくことの大切さと発問の仕方について学ぶことができた。

②教育活動全体で道徳的価値の実践化を図る。

ア 各教科、領域等と関連づけての年間指導計画の見直し

5年「社会のために役立つよろこび」 4-(4) 勤労・社会奉仕

子どもたちは、昨年度猿渡川の清掃活動を行った6年生から、猿渡川にはたくさんのごみが落ちていたことを聞き、身近にある猿渡川の環境について調べてみたいという声は子どもたちの方からあがってきた。そこで、



意識や思考の連続性を保とうと、総合的な学習の時間に「環境問題」を、国語科「パネル討論をしよう」の単元で「私たちにできる環境ボランティア」をテーマに学びを進めた。知立市環境課の「ごみと環境の問題について」の出前授業を受けたことで、より身近な環境問題について意識するようになった。夏休みに行った親子草取りでは、雨が降る中、みんなで協力して草取りを行うことのよさや、自分ががんばったことで、学校がきれいになったという達成感を味わった。これらの学習と道徳の時間の学びを通して、働くことのよさや自分たちの力で地域を大切にしていきたいという気持ちが育ってきた。

イ あいさつ運動・ありがとう活動

児童会では、礼節を重んじ、自らを律し、他とともに心豊かな生活を築く態度を養うために、あいさつ運動を定期的に行っている。今年度は、さらにあいさつの輪が広がるようにと6年生の子どもたちが独自にあいさつ運動を行った。また、12月に行われた人権教育講演会での講師の話を受け、「広げよう ありがとうの輪を」を合い言葉に、全校児童の「ありがとうメッセージ」を昇降口に掲示するなど身近な人々への感謝の気持ちを表す活動を行った。毎月0の日を「ありがとうの日」として感謝の気持ちをカードに書いて教室に掲示したり、席替えのときに感謝の気持ちを手紙にして相手に渡したりして、日頃から「ありがとう」の気持ちを伝えている。



〈ありがとうメッセージ〉

2年2組のみなさんへ お手紙ありがとうございます。せつめいもきちんと聞いてくれてありがとう。こんどいっしょに作りたいです。

ウ 多くの体験活動の計画

- ・伝統工芸体験
- ・ものづくり体験
- ・大豆栽培・菊づくり等の栽培活動
- ・いのちの教育
- ・猿渡川の清掃

学区には8軒もの仏壇店があり、4年生は社会科の学習で仏壇店を見学したり、伝統工芸師の方に来ていただき、蒔絵や彫金などの体験を行ったりしている。今年度はものづくり体験において5・6年生も彫金による表札づくりを体験した。職人の素晴らしい技に感動するとともに、伝統や文化を尊重する気持ちや、働くことへの意識を高めることができた。



〈児童の感想〉

信じられないくらい細かい点で作品が作られていました。ぼくは1時間で手が痛くなってしまったけど、職人さんたちはこれを1日中やっています。すごいなあと思いました。

地域ボランティアによる菊づくりは、20年以上前から続いており、毎年5年生の子どもたちが行っている。摘芯や挿し芽、輪台づけ、その他鉢の植え替えや肥料やり等、ボランティアの方々にはお世話になりながら行っている。また、子どもたちが育てた菊は、毎年地域の文化展で展示され、町民の目を楽しませている。咲き終わった菊は、次年度のために何本か親株として残し、次の5年生のために大切に育てている。



〈児童の感想〉

菊がきれいに咲いてうれしかったです。台風が2回も来て、鉢を校舎の中に入れて出したりしました。菊の世話は大変だったけれど、菊の先生たちに教えていただいたおかげで、きれいに咲きました。来年、私たちが育てた苗で4年生の子たちがまたきれいに花を咲かせてほしいです。

③家庭や地域との連携

- ・保護者ボランティアによる読み聞かせ
- ・地域ボランティアによる菊づくり
- ・道徳の授業公開
- ・弘法さん学習
- ・地域の方をゲストティーチャーに迎えての授業

・人権教育講演会

心豊かな子どもの育成のために、地域や保護者の方を巻き込んで、心の教育を進めた。年3回ある読書週間には、保護者ボランティア18名による読み聞かせと、地域読書ボランティアグループの「ホットケーキの会」によるストーリーテリングを実施した。子どもたちの喜ぶ顔を見たいと、読書週間の他にも毎週火曜日の読書の日に合わせて読み聞かせに参加して下さっている。読み聞かせる本は、子どもが楽しめる本から、道徳的心情を高める本まで幅広く選んでいただいた。



〈保護者の感想〉

たくさん虫や動物が出てくるたび、歓声をあげ、とても反応がよく、楽しく読み聞かせができました。

保護者の方に本校で行われている道徳教育を理解し、道徳教育への関心を高めていただこうと9月と1月の学校公開日と2月の授業参観日に、道徳の時間の授業公開を行った。また、PTA総会など、保護者の集まる機会に本校が取り組んでいる道徳の実践について話をしたり、学校日より等で知らせたりしたことによって、道徳教育への関心を高めることができた。



さらに、道徳的価値に気づき、高めるために、道徳の時間の事前事後、または道徳の時間にゲストティーチャーを積極的にお呼びした。このことにより、子どもたちの気づきが高まった。

〈子どもの感想〉

辻さんのお話を聞いて、弘法さんが好きになりました。行ってみたいと思いました。弘法さんは知立市の自慢なんだと思いました。大切にしたいです。

4年生は毎年、社会科と総合的な学習の時間に環境について学んでいる。子どもたちの道徳的価値の高まりを期待して「みんなが気持ちよく生活できる社会にしよう」という主題で単元を組んだ。アイシン環境プログラムに参加し「スナメリくんをすくえ」や「シンパシーゲーム」などの題材を通して、環境を守るために自分たちにできることはないか考え始めた。そして、使い古しのタオルを手縫いして雑巾を作ったり、生ごみから肥料を作ったり、ごみを減らす取り組みを行った。また、自分たちの学びを広く地域の方に知ってもらいたいと願い、ポスターやちらしを作り、弘法さんの命日に、遍照院に集まってきた人々に配った。



〈子どもの感想〉

公園にはいろいろなごみが落ちていました。タバコや空き缶、ガラスの破片などありました。危険だからごみは捨ててはいけなかったと思います。地域の人に話しかけるのは緊張したけれど、自分たちの呼びかけをきちんと聞いてもらえてうれしかったです。また弘法さんに行って、エコ活動について呼びかけたいです。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

授業名人による授業を参観し、授業研究など研修を重ねたことで、道徳の授業における発問の仕方や板書のまとめ方など身につけることができた。これらのことによって、子どもたちの多様な考えを引き出し、道徳的価値について考えを深めることにつながった。また、地域教材や体験的な活動と各教科、領域とを関連づけて授業を組み立てたことで、意識や思考の連続性を保つことができた。さらに、学校公開日などで道徳の授業を公開したことで、地域や保護者の方に道徳の授業について少しずつ理解を深めていただくことができた。

(2) 今後の課題と取組

授業に慣れるということが、道徳の授業をつくる最善の道であると考え。今後、授業を実践するにあたり、資料の開発・発掘を含め、その資料の取り扱い方や資料の読み取り、発問の工夫をすることで、子どもの心を揺さぶり、道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深められるよう努力していきたい。